

# 第2期 身延町まち・ひと・しごと創生 「人口ビジョン」「総合戦略」〔概要版〕

日本の人口は2008年をピークに減少局面に入り、今後加速的に進むと推計されており、人口減少がこのまま続けば、将来的には経済規模の縮小や生活水準の低下などを招くことになります。

まち・ひと・しごと創生とは、「少子高齢化の進展に的確に対応し、人口の減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくこと」を目的に、「まち・ひと・しごと創生」に関する施策を総合的かつ計画的に実施することです。

国は、この目的に取り組むため、人口の中長期的な展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（長期ビジョン）を策定するとともに、目標や施策の基本的方向等をまとめた、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（総合戦略）を策定し、第2期（R2～R6年度）の取り組みを進めています。

地方公共団体においても、この「まち・ひと・しごと創生」の趣旨を踏まえ、少子高齢化と人口減少という危機感を共有しながら、「地方公共団体の人口ビジョン」並びに「地方公共団体のまち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、第2期（R2～R6年度）の取り組みを進めていきます。

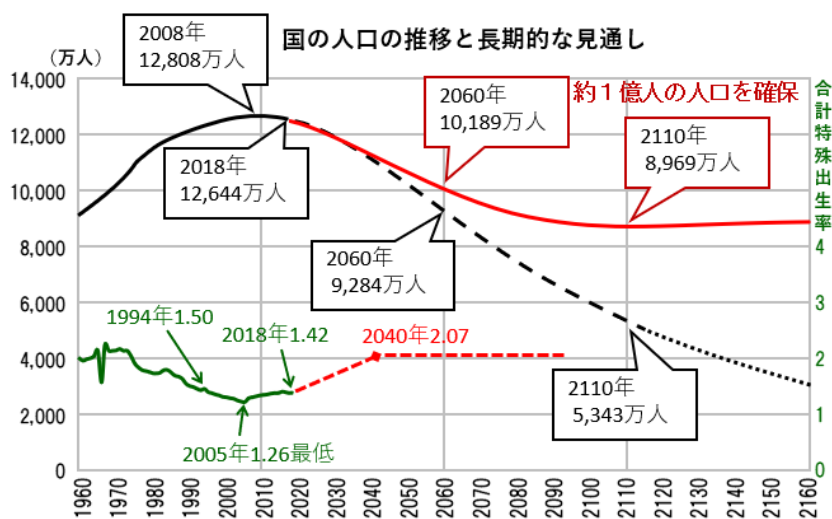
本町では、このたび「**身延町まち・ひと・しごと創生人口ビジョン（改訂版）**」と「**第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略**」を策定しましたので、その概要をご紹介します。

## 国のまち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」（抜粋）

日本の人口は、増加を続けてきましたが、1970年代半ばに合計特殊出生率は人口を維持する水準を下回り、2008年をピークに減少局面に入り、このまま推移すると2060年には9,284万人にまで落ち込むと推計されています。

これに対して長期的見通しでは、仮に2040年に出生率が人口置換水準同程度の2.07まで回復するなら、2060年に1億人程度を確保し、その後2100年前後には定常状態になることが見込まれます。

人口減少対策は、若い世代の結婚・出産・子育ての希望が実現することで、出生率を1.8程度まで向上させ、少子化の改善が見込まれます。国において目指すべきは、結婚・出産・子育ての希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ることです。



## 国のまち・ひと・しごと創生「総合戦略」（抜粋）

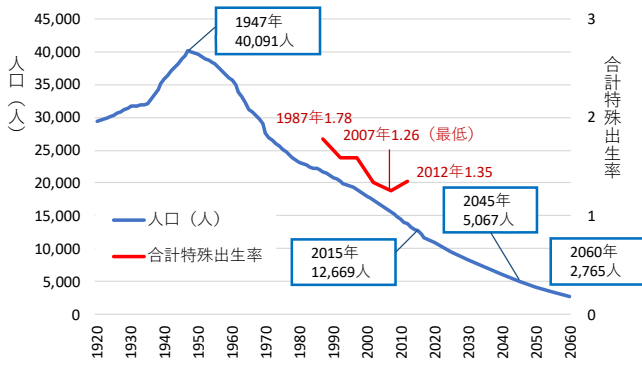
「活力ある地域社会」の実現と「東京圏への一極集中」の是正を目指すため、以下の4つの基本目標と2つの横断的な目標の下に取り組めます。

- 【基本目標1】稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする
- 【基本目標2】地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる
- 【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 【基本目標4】ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる
- 【横断的な目標1】多様な人材の活躍を推進する
- 【横断的な目標2】新しい時代の流れを力にする

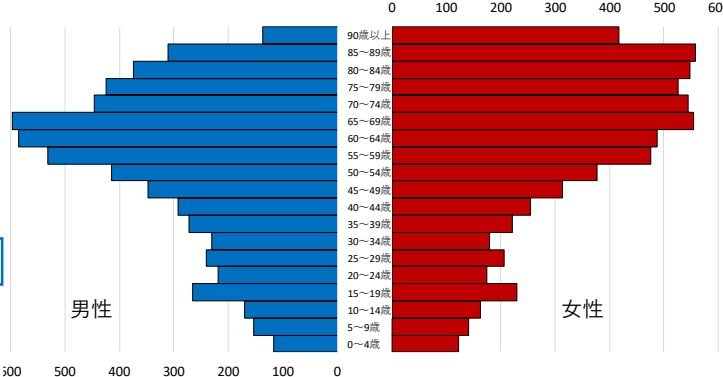
## 人口の動向（人口の推移と推計）

身延町の人口は、1947年（昭和22年）に40,091人を記録しましたが、以降は現在まで減少が続いており、2015年に12,669人であった人口は、2045年には5,067人になり、2060年には2,765人にまで減少すると推計されています。人口減少は、少子化（自然減）と進学や就職等による都市部等への流出（社会減）が大きな要因となっており、特に若い世代の減少が大きくなっています。若い世代の減少は、親となり得る世代の減少であり、出生数・出生率の減少に繋がり、結果として人口減少が加速的に進んでいます。

人口推移と推計、合計特殊出生率の推移



2015年人口ピラミッド（人）

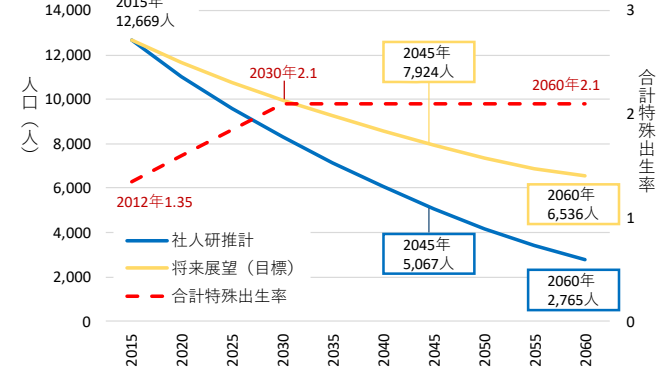


## 人口の将来展望（目標）

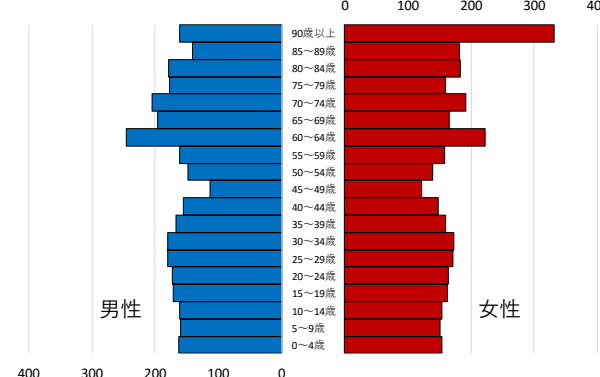
まちづくり町民アンケートによって明らかになった「人口は1万人以上が必要」「3人又は2人の子供を持つことが理想」といった町民の希望の実現に向け、また、国の長期ビジョン・山梨県の人口ビジョンを勘案し、2060年の人口の将来展望を6,500人とします。これは、合計特殊出生率を「人口置換水準」である2.1まで上昇させ、転入・転出を均衡させることで実現が可能となります。将来展望を実現すると2060年の人口ピラミッドは、出生数が安定して確保されることから0歳から40歳まで理想的に推移しています。

2060年の将来展望 **6,500人**

推計人口と人口の将来展望、合計特殊出生率



2060年人口ピラミッド（人）



※：●まちの創生…町民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会の形成。●ひとの創生…地域社会を担う個性豊かで多様な人材の確保。●しごとの創生…地域における魅力ある多様な就業の機会の創出。

## 身延町まち・ひと・しごと創生総合戦略

第2期身延町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和2～6年度）は、第1期の取り組みに引き続き、5つの基本目標を掲げ、若者を中心とする人財の確保や定住化、雇用の創出、観光をはじめとする交流人口の拡大、結婚・子育て支援・教育環境の改善など、まち・ひと・しごと創生（地方創生）に取り組んでいきます。

### 基本目標1 地域に根ざした雇用の創出

- 身延町の特色を活かした観光、農業、地場産業の振興によって、新たな雇用を生み出します。また、新規事業所やサテライトオフィスの誘致、起業支援を推進します。
- 身延山、下部温泉、本栖湖などの観光資源の魅力アップや近隣町と連携した広域周遊ルートの作成、県内外へのPRなどを推進します。
  - あけぼの大豆などの農産物の生産、加工品の開発を支援し、新規就農者の拡大を推進します。
  - 西嶋和紙などの地場産品の販路拡大のために県内外へのPRを推進します。

### 基本目標2 町を元気にできる人財の育成

- 町の若者が希望をもち、まちづくりに参画する機会をつくるなど、将来を担う人財育成に取り組めます。
- 「町長と語る高校生の集い」を毎年開催し、若い世代の意見をまちづくりに反映していきます。
  - 地元高校、大学と連携し、まちづくりに関する調査研究や具体的事業を実施します。
  - まちづくりを企画する人財やグループを対象に、地域活動のための組織づくりを支援します。



### 基本目標3 人の流れをつくり、 移住・定住の促進

- 空き家の活用、宅地分譲、住宅の建設などをすすめ、移住・定住を促進します。
- また、空き校舎等を活用した人が集える福祉施設を検討します。
- 空き家・宅地情報の発信、空き家見学会の開催、移住体験施設の提供など、総合的な移住・定住施策を推進します。
  - 医療介護機関などの有識者と連携し、空き校舎等を活用した福祉施設（身延町版CCRC）を検討します。
  - 子育て世帯向けに、町営住宅のリノベーション・建設を行うとともに、県内外へのPRを推進します。

### 基本目標4 結婚・出産・子育て環境の充実

- 若い世代が夢や希望をもち、安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりをすすめます。
- 企業、民間団体などと連携し、結婚相談や出会いの機会を充実します。
  - 妊娠・出産や子育て世代の経済的負担軽減、スポーツクラブ活動など、支援を充実します。
  - 子育て世代が安心して仕事と子育ての両立ができるように、延長保育、学童保育を充実します。



### 基本目標5 特色ある持続可能な 地域社会の形成

- 生活・交流・防災拠点を確保し、公共交通や情報ネットワークを充実し、健康で安全・安心なまちづくりを推進します。
- 空き校舎などを活用し、防災・避難、福祉、交流、学童保育、運動などの諸機能をもった地域拠点の整備を検討します。
  - 地域住民にやさしく便利な交通ネットワークを目指し、町内を運行する公共交通網の利便性向上を検討します。
  - 子どもから高齢者まで幅広い世代の健康保持・体力向上を推進します。

安らぎと 活力ある ひらかれたまち

「生まれてよかった・育ってよかった・住んでよかった」  
と思えるまち

まち・ひと・しごとの好循環

「人口の減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口の減少を加速させる」といった構造的な問題を克服するため、総合戦略の取り組みは、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」の取り組みを**バランスよく一体的に推進**していきます。

「しごと」が「ひと」を呼び、  
「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環

「しごとの創生」

【基本目標 1】  
地域に根ざした雇用の創出



「ひとの創生」

【基本目標 2】  
町を元気にできる人財の育成

【基本目標 3】  
人の流れをつくり、移住・定住の促進

【基本目標 4】  
結婚・出産・子育て環境の充実



「まちの創生」

【基本目標 5】  
持続可能な地域社会を形成する



～町民をはじめ企業、団体のみなさんとともに、取り組みを進めます～